

自己点検・自己評価の概要

1. 教育目標

- (1) アクティブラーニングができる授業づくりを推進する。
 - ① 新カリキュラムに位置づけた科目「学びの基本」を基盤にした授業を展開する。
 - ② ミニ授業研究会の充実を図る。
 - ・ 授業実践報告会を定例化する。
 - ③ 臨地実習とオンライン実習を連動させた看護学実習の効果的な展開を図る。
- (2) 地域（病院等）と連携した看護基礎教育を推進する。
 - ① 教育課程編成委員会の活性化を図る。
 - ・ 従来の委員に地域代表委員として訪問看護ステーション等の代表を加え、臨地実習が安定的に行えるよう連携を深める。
 - ② 臨地実習施設を対象に新カリキュラムの説明会を持つ。
 - ③ 臨地実習施設との人事交流
 - ・ 看護教育研修生として、3か月～1年の間、実習施設の指導者を受け入れる。
 - ・ 本校主催の研修会に実習施設の指導者の参加を勧める。
 - ④ 浦添地区自治会との連携を深める。
 - ・ 浦添市まちづくり生涯学習推進協議会に学生を委員として派遣する。
 - ・ 浦西中学校区コミュニティづくり推進委員会に教員を委員として派遣する。
 - ・ 浦添市生活支援体制整備事業における第二層協議体に教員を派遣する。
 - ⑤ 学生のボランティア活動を教育的視点を踏まえて推進する。
 - ・ 地域の生活を理解する。
 - ・ コミュニケーション能力の育成する。
- (3) 入学の学習活動に生かせる「入学前学修」を実施する。
 - ① 科目「学びの基本」への導入として浦添看護学校の教育目的を説明し、学び方（アクティブラーニング）を体験する。
 - ② オンラインと対面を組み合わせ、入学予定者に反転授業を体験させる。
 - ③ ミニ講義を実施する。
- (4) オンライン授業と対面授業の効果的な展開方法の定着を図る。
 - ① オンライン授業と対面授業を時間割上に固定する。
 - ② オンライン授業と対面授業時の授業内容の一貫性を維持する。
 - ③ マニュアルを作成する。
- (5) 看護基礎教育における ICT の活用を推進する。
 - ① 電子テキストの効果的な活用を検討する。
 - ・ 電子テキストを使つての利点と欠点を把握し、課題を抽出する。
 - ・ 課題を踏まえて効果的な活用法を検討する。

2. 財政体質の安定化

- (1) 収支を見極めた予算計画を立て、計画に基づいた執行をする。

- ①予算確保及びその執行について教職員の理解を得る。
- (2)財源確保に向けた取り組みを推進する。
 - ①退学者、休学者の増加を抑える。
 - ・学習困難者に対する学習支援を継続する。
 - ・個人及び保証人を含めた面談を随時実施し、学習困難の元になっていることの事実を双方で共有し、解決方法を模索する。
 - ②キャリア支援チームによる学生支援を充実させる。
 - ・就職活動の支援（小論及び就職面接指導、県内の医療施設の紹介等）
 - ・再試験対象者への継続的な個別指導を実施する。
 - ③スクールカウンセラーの活用を推進する。
 - ・学生への周知方法を工夫する。
 - ④受験生の確保を推進する。
 - ・広報活動の方法を検討し、実践する。
 - ⑤Web オープンキャンパス等の実施について
 - ・在学生の学習状況を出身高校の進路指導部あて発信する。
 - ・在学生の出身高校と連携したミニ講義を行う。

3. 組織構造の改善

- (1)効率的な学校運営を推進する。
 - ①管理者会議、教務調整会議、領域リーダー会、学年リーダー会を組織化し、連絡調整を密にする。
 - ②校務分掌の具体化を図り、教員が身近なものとして認識できるようにする。
 - ③各教職員を屋根瓦方式で支援する体制を強化する。
 - ④教員を安定的に確保する一助として、実習施設との「出向制度」を設ける。
- (2)教職員の同僚性（協同）を推進する。
 - ①実践研究授業（授業参観→授業の振り返り→授業改善）を実施する。
 - ②FD 活動を推進し、教員同士が学び合う風土の醸成を図る。
 - ・教材備品のリスト作成をする。
- (3)ワークライフ・バランスを推進する。
 - ①通常業務において何が業務を圧迫しているのかを把握する。
 - ②自己の時間管理を徹底する。
 - ③情報伝達の効率化として諸連絡事項は Web 活用で行う。
 - ④有給休暇の計画的取得を推進する。
 - ⑤諸会議が時間内で終われるよう、資料等の事前配布を徹底する。
- (4)新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐための取り組みを継続する。
 - ①「新型コロナウイルス感染拡大防止に関するガイドライン」を適宜見直し運用を徹底する。
 - ②学生に対する情報発信を徹底する。
 - ③在学生及び家族の皆様（保証人）との情報交換を適宜実施する。

3. 各評価指標の概要

指標Ⅰ：教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
1) 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	4
2) 学校における職業教育その他の教育指導等の特色は何か	4
3) 社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか。	4
4) 理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか。	4
5) 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

課題：①本校における看護教育の特色をより鮮明にする。

18歳人口が年々減少していく中で、看護師を目指す若者を定員数確保することは、今後一層厳しくなることが予測される。看護師を目指す若者に選ばれる学校を目指して、専門学校としての本校の特色をより鮮明にしていくことが必要である。

②自己点検・自己評価の結果を踏まえた 効率的運営と教育課程編成委員会活動の活性化

社会のニーズを踏まえた学校の将来構想および臨床現場との緊密な関係性の中で、今後の教育の在り方を検討していくことが必要である。

③保護者との連携を密にして教育理念等に係る効果的な周知の方法を検討する必要がある。

改善策：①課題1) について

- (1) 教員の教育力及び教育環境の充実
- (2) 学内における研修体制の充実
- (3) 公開授業の推進

②課題2) について

- (1) 教育課程編成委員会の開催日数、及び委員数を増やし、多方面から意見が得られるようにする。

③課題3) について

- (1) 後援会総会時に建学の理念及び教育目的の説明を行うと同時に、教育現場が抱える課題を共有する。
- (2) 後援会総会時だけでなく、年2回程度の情報交換会をオンラインで行う。

特記事項

- ・実習病院からTAが継続的に派遣されている。
- ・保護者会のオンライン開催で参加者が増えた。

指標Ⅱ：学校経営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
1) 目的に沿った運営方針が策定されているか。	4
2) 運営方針に沿った事業計画が策定されているか。	4
3) 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか・有効に機能しているか。	4

4) 人事、給与に関する規程等は、整備されているか	4
5) 教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか。	4
6) 業界や地域社会等にコンプライアンス体制が整備されているか。	4
7) 教育活動に関する情報公開が適切になされているか。	4
8) 情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	4

課題：①地域に根づく看護学校としての情報発信を推進する。

②ICTに関わる技術職員の確保が必要である。

特に教務事務担当職員は外来講師のオンライン授業のサポートを行っているために従来の業務が滞りがちである。

改善策：①課題1) について

- ・浦添市、浦添市8自治会、JICA沖縄国際センター、実習施設である中規模病院等との連携を深める。
- ・地域活動への教職員の積極的な参加を促す。
- ・学生のボランティア活動と各看護学教科目との連携を検討する。

②課題2) について

- ・法人本部との調整

特記事項

- ・浦添市生涯学習推進協議会への学生派遣ができた。
- ・浦西中学校区コミュニティづくり推進委員会への職員派遣

指標Ⅲ：教育活動

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
1) 教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方針などが策定されているか。	4
2) 教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	4
3) 学科などのカリキュラムは体系的に編成されているか。	4
4) キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4
5) 関連分野の企業・関係施設など、業界団体などとの連携により、カリキュラムの作成・見直しなどが行われているか。	4
6) 関連分野における実践的な職業教育（産学連携による職業体験・インターンシップ、実技・実習など）が体系的に位置づけられているか。	4
7) 授業評価の実施・評価体制はあるか。	4
8) 職業教育などに対する外部関係者からの評価を受け入れているか。	4
9) 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	4
10) 資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるのか。	4

課題：①教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方針などについて

- ・2022年度の第5次看護基礎教育のカリキュラム改正に伴い、教育課程の編成を行った。2022年度は新カリキュラムと旧カリキュラムを並行して進めるため、煩雑なカリキュラム運営が予測される。実施方針を明確にしながら運営していくことが課題である。

②教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の

- ・実技科目の授業内容

技術テストの導入については検証を積み重ねていく必要がある。

- ・実習の内容

- ・2016年度から実施してきた卒業1年目の卒業生(浦看カフェ参加者)に実施したアンケート内容等を引き続き検討していく。2021年度は、新型コロナウイルス感染拡大によって浦看カフェでの卒業生のアンケートはできなかった。

- ・卒業3年のラダーをふまえた看護技術到達については、引き続き検討課題とする。

③関連分野における実践的な職業教育（産学連携による職業体験・インターンシップ、実技・実習など）の体系的な位置づけについて関連分野における実践的な職業教育（産学連携による職業体験・インターンシップ、実技・実習など）の体系的な位置づけについて

- ・TAによる授業の成果を研究としてまとめることは今後継続的に検討する。

④授業評価の実施・評価体制について

- ・実習評価はルーブリック評価で体系化できたが、見直し等は継続検討する。

- ・授業科目に関しては導入に向けて引き続き検討する。

- ・授業評価結果のデータ解釈の方法としてテキストマイニングの手法（計量テキスト分析）などを理解し、授業評価に活用していくことが課題である。

改善策：①課題1)について

- ・理念を踏まえ引き続き教育内容の検討を継続的に行う。
- ・看護教育協議会主催の平成29年度・30年度の研修（協同学習）での学びを今後も教育方法へ取り入れて実践していく。

② 課題2)について

- ・2021年度も各専門領域の科目内容や指導方法の現状と課題についての検討を行い、効果的な学修方法を実践していく。各領域の看護過程の2021年度講義進度は、領域の担当者と計画通り実施できるよう調整する。

③ 課題3)について

- ・TAによる教育効果を評価し派遣元との連携の方法を制度化する。

④ 課題4)について

- ・実習の場合は、2022年度から評価指針について検討する。
- ・テキストマイニングの研修会は開始できたが、今後ミニ授業研究会などを継続して実施し効果的な授業評価に活用していく。

特記事項

- ・研修の一部は、オンラインで複数人数受講することができた。
- ・協同学習という教育実践の基本、及び学生のレポート等の分析手法を継続して学べる体制が創れた。

指標Ⅳ：学修成果

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
1) 進学率や就職率の向上が図られているか	4
2) 資格取得率の向上が図られているか	4
3) 退学率の低減が図られているか	4
4) 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
5) 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4

課題：①休学者のほとんどが「メンタル面の問題」「学習への不安」を抱えている。

②卒業生・在校生の社会的な活動及び評価と卒業後のキャリア形成への効果の把握について今後、検討を要する。卒業時の技術到達度を把握し、卒業後のキャリア形成と比較する必要がある。

③退学理由が「進路変更」であるが、休学理由は「学習への不安」「単位未履修」などもあり、学習への支援を個別的に実施する必要がある。

改善策：①課題1)について

- ・スクールカウンセラーの配置を2019年度から担当者を追加し、2回/月に変更する。

②課題2)について

- ・同窓会と連携して卒業後のキャリア調査を実施する。
- ・卒業生の就業先での就業状況を把握し、看護基礎教育での課題を明確にしていく。技術到達度を把握する
- ・卒業後のキャリア形成の効果の把握については、アンケートなどを実施し継続的に検討していく。

③課題3)に対して

- ・キャリア教育の充実を行う。
- ・看護職としてキャリアを積むことの意義を指導するために、看護協会や認定看護師など講演会の計画をする。
- ・学習支援を個別・若しくはグループ単位で継続的に実施、学習支援を強化する。

特記事項

①国家試験対策が充実している

- ・資格取得については、国家試験対策委員会が設けられていて、各学年担当の意識も高く、低学年から学習させている。
- ・模擬試験の個人評価を分析した個別指導を徹底している。
- ・国家試験合格の状況分析を行い、次年度の教育計画に生かしている。
- ・後援会からの経済的支援がある。

指標V：学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
1) 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
2) 学生の健康管理を担う組織体制はあるのか	4
3) 課外活動に対する体制は整備されているか	4
4) 学生の生活環境への支援は行われているか	4
5) 保護者と適切に連携をしているか	4
6) 卒業生への支援体制はあるか	4
7) 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
8) 専門学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	4
9) 基本的な生活習慣の確立のため取組が行われているか	4
10) 学生の安全管理のための取組等（災害共済保険、スクールカウンセラー、発達障害のある生徒等への支援等）	4
11) 進学・就職指導に係る支援体制は整備されているか	4

課題：①社会人ニーズを踏まえた教育環境の整備について、把握が必要である。

②病院や市町村奨学金貸与については、把握できていない。

③他の専門学校と連携した教育の検討が必要である。

改善策：①課題1) について

・社会ニーズを踏まえた教育環境では、必要時対応する。

②課題2) について

・奨学金貸与学生の実態を把握する。（学生が直接契約している病院等の奨学金の利用状況）

③課題3) について

・新カリキュラムの内容として次年度試行プログラムを作成する。

特記事項

・健康診断の結果を踏まえた保健指導については、2018年度から各自が健康目標管理シート活用で健康管理行動に取り組むようになった。

・学生のニーズに迅速に対応するためスクールカウンセラーは2名体制である。

・キャリア支援を必要とする学生ニーズの増加にキャリアサポーター認定在籍(4人)職員が中心となり対応している。

・ソーシャルメディア利用のガイドラインの小冊子を作成して全学生へ活用を勧めた。

指標VI：教育環境

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
1) 施設・整備は、教育上の必要性に十分に対応できるように整備されているか	4
2) 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	4
3) 防災に対する体制は整備されているか	4

課題：①施設整備について

- ・実習室の設備更新時期となる箇所がある。
- ・体育館の出入口シャッターの点検整備が必要である。

②環境整備について

- ・学生の清掃は各クラスの美化委員を中心に行っているが、隔日登校や感染対策のために美化委員会を持つことが難しく、清掃エリアの変更に係る伝達やクラス間の連携を取ることが難しかった。
- ・国家試験対策期間中、1、2年生が3年生と接触しないよう対策をとったが、視聴覚室、演習室の利用や実習のまとめ発表のための教室確保、移動の際の導線や清掃を行うか否かなど課題がある。
- ・定期的な清掃チェック方法。
- ・各教室にアルコール消毒液・ペーパータオルを整備したが、短い休憩時間に加え5校時までの授業時間の延長で、十分な清掃・消毒が出来なかった。

改善策：①課題1)について

- ・年度計画をもって更新を行う。
- ・年度計画をもって更新を行う。

②課題2)について

- ・清掃エリアを学生の時間割や学内実習等に合わせて変更し、各クラスの美化委員にメール等で一斉に連絡する。また必要時は対面で説明し、清掃分担への理解を深め、美化委員自身に動いてもらうようにする。実習中は実習グループで清掃を分担し、グループ担当の教員にも声掛けをしていく。また、頻繁に変更があり徹底が難しかったため、次年度も清掃しやすい方法を検討していく。
- ・学内にて検討しマニュアルを作成していく。
- ・行事前の清掃で清掃担当・チェック表を作成し、各清掃エリアに美化委員をチェック係として指名する。クラス内の清掃分担等を美化委員にまかせ、クラスメイトへの清掃指示や監督をすることで、美化委員一人ひとりに責任を持たせ行き届いた清掃を行う。
- ・学年の担当教員が声掛けを行う。

特記事項

- ・大講堂に大型プロジェクターの設置、2・3階多目的コーナーへWi-Fi機器設置を行い全館Wi-Fi設備を完備した。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、正面玄関に顔認証手指衛生システム(プロテゲート)を設置した。
- ・教務部・事務部カウンターに非接触型体温計を設置した。
- ・実習室整備係が主体的に消耗品などのチェックの役割を担っている。

- ・学内清掃：7月、12月、3月（予定）
- ・マニュアル作成と定期的な清掃チェックを行っている。

指標Ⅶ：学生の受け入れ募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
1) 学生募集活動は適正に行われているか。	4
2) 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。	4
3) 学納金は妥当なものとなっているか。	4

課題：①入学時アンケート調査結果と現状の学生募集活動とを照らし合わせた結果、本校が行っている活動は、希望者の意向に沿って適切に進められているが、入学生が本校を志望した理由を踏まえ今後更に教育内容の質を高め教育環境の整備充実に努めていく必要がある。また、情報社会において入学希望者へ適切に情報提供を行えるよう、Webを活用した広報活動の検討やそれに伴う環境整備が必要となる。

改善策：①課題1)について

- ・入学時アンケート調査結果を踏まえ、進路選択の指標として重要な学校案内パンフレット、学校ホームページ、オープンキャンパスを充実させ、その内容をWebに反映し入学希望者が必要とする情報を詳細に希望に沿って伝えていく。また、入学時アンケート調査を継続し、回答項目に適宜、修正・追加を加え入学希望者が求める情報を適切に提供していく。

特記事項

- ・オープンキャンパス等のイベント中止を受け、入学希望者に対しWebにて在校生へのインタビュー動画を公開し、その内容を学校案内パンフレットに反映した。また、一部進学相談会をオンラインにて行うことができた。

指標Ⅷ：財務

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
1) 中長期的に学校の財務基盤は安定しているか。	4
2) 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	4
3) 財務について会計検査が適切に行われているか。	4
4) 財務情報公開の体制整備はできているか。	4

課題：①2020年度同様にコロナウイルス感染が予想以上の拡大がみられ予算管理が難しかった。

改善策：①課題1)について

- ・予算の計画的かつ効率的な執行をこれからも心掛けていく。

特記事項

- ・質の高い教育を提供できるように教職員一丸となって取り組んでいる。

指標Ⅸ： 法令等の遵守

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
1) 法令・専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか。	4
2) 個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか。	4
3) 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか。	4
4) 自己評価結果を公表しているか。	4

課題：①新カリキュラムの実践とそれに伴う課題を明確にする。

②個人情報保護に関しては教職員共に認識を新たにすることがある。

対応策：①課題1)について

・新カリキュラムに係る授業評価指針を作成し、それに基づく授業評価を徹底する。

②課題2)について

・個人情報保護に係るインシデント発生時にはその都度、丁寧に説明を繰り返す。

指標Ⅹ：社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
1) 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	4
2) 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	4
3) 地域に対する公開講座、教育訓練（公共職業訓練等）の受託等を積極的に実施しているか	4

課題：①今年度も学生のボランティアが活発に行われたとはいえない状況である。原因として、新型コロナウイルス感染症の影響でボランティアの依頼が少なかったことや、ボランティアで他者と接触することに不安を感じ、積極的にボランティアに参加することができなかった学生がいたことが予測される。学生にとってボランティア活動は教科目だけでは達成できない体験や学びの機会であるため、今後は新型コロナウイルスへの感染状況を踏まえつつ、可能な形でのボランティア活動を検討していく。

改善策：①課題1)について

・新型コロナウイルス対策に関するボランティアに学生は参加したことで、社会的な問題になっていることに医療者として貢献できたという達成感をもつことができている。よって、新型コロナウイルスの流行の状況を踏まえて、学生が参加できるボランティアの調整をすることおよび、参加する際には感染対策に留意し、学生が積極的にボランティアに参加できるよう調整する。

特記事項

①新型コロナウイルス対策に関する学生のボランティア活動は、ワクチン接種会場でのサポートであった。具体的な内容は以下であった。

- ・ワクチン接種を受ける方々への手指消毒の促し
- ・ワクチン接種を待つ方々への暑さ対策、水分接種の促し
- ・ワクチン接種会場のごみの回収

②ボランティアを行った学生の感想は以下であった。

- ・「ありがとうねー。頑張ってたね」と言われたことがとても嬉しくて心に残っている
- ・看護師さんが周りを見ていて、接種後の人の変化にすぐ気付いていたので、すごいなと思った
- ・傾聴や観察が大事なことだと改めて感じる事ができた

③学生の実施した本ボランティア活動は浦添市より表彰を受けた。

尚、本校は、一昨年から浦添市地域包括おとな支部会のメンバーとして地域貢献の方法を検討してきた。2021年度は地域の自治会の高齢者と交流を持つことができた。このことをきっかけに今後も交流を重ねていく計画が進んでいる。

又、地域貢献の一環で沖縄県の依頼により教職員により職員ワクチン接種の応援や保健所業務支援を6月～9月、1月に行った。

指標XI：国際交流

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
1) 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか。	4
2) 学内での適切な体制が整備されているか。	4

課題：①2021年度は昨年に引き続き、新型コロナウイルスの影響で学外者との交流を持つことが難しく、直接外国の方と会って国際交流する機会は少なかった。しかし、Zoomを用いた遠隔でのコミュニケーションを取ることができた。学生も異文化を背景に持つ外国の方との意見交換ができたことで多くの学びを得た。次年度は新型コロナウイルスの感染状況を踏まえつつ、ICTを用いた国際交流を充実させていく。

改善策：①課題1)について

- ・留学生への受け入れについては、法的規制を順守することが困難な状況があり、現時点では時期尚早と考える。ICTを用いて学生が国際交流できるよう整えていく。

特記事項

- ・国際交流に関して、地域の特色を活かした学習活動ができています。

指標XII：特別活動等

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
1) クラブ活動特別活動を奨励、支援しているか。	4
2) 保護者会等と連携した活動を推進しているか。	4

課題：①地域の方々とのコミュニケーション積極的に取る場を設ける必要がある。

②オンライン保護者会の参加者を増やす工夫が必要である。

改善策：①課題1)について

- ・地域に学生の活動を説明し、受け入れてくれる場を積極的に活用する。
- ・夏期休暇期間中に学生が参加できる正課外カリキュラムを検討し、実施する。

②課題2) について

- ・オンライン保護者会の際、学校の現状説明だけでなく、30分程度のミニ講座を入れ、看護師教育について保護者の関心を喚起する。

特記事項

- ・オンラインによる保護者会は、参加者が対面よりも多く、意見や情報交換ができる。